

第4回有識者懇談会における主な意見について

項目		内容
市民の会 の 提 言	イノベーションデザイン学部について	<ul style="list-style-type: none"> 市の案であるイノベーションデザイン学部のカリキュラムは、創造能力開発、人間研究、文化研究、技術といった面が大変希薄だと思ふ。 宇都宮大学のような既存の学部や学科を地域などの視点を取り入れながら改組している例は参考になると思う。 ものづくりも大事だが、まちづくり、世の中づくりといったことを考えると、創造力と連携する力を育てていく分野というのは良いと思う。
	地域ものづくりデザイン学部について	<ul style="list-style-type: none"> 旭川大学の公立化を考えると、新学部を設置することだけでなく、既存の学部の見直しを行うことも考える必要があると思う。 旭川は家具分野で世界レベルであり、ものづくりデザイン系の教員は確実に確保できる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 1学部2学科制にして、一方を市民の会の案にあるような地域ものづくりデザイン学科とし、もう一方を市の案にあるような社会科学的地域をデザインするような学科とする考え方もあると思う。 社会福祉系と経済・ものづくり系の2学部体制にするか、社会福祉系と経済系、ものづくり系の3学部体制にするという考え方があると思う。 新しい「もの」や「こと」を世に出すことで、新しいニーズが生み出されるという発想を大学で教えるということは挑戦的であるが、高校なども自分で考える力を教えるというふうに変まっていく中で、その上にある大学は世の中を創造していくところに目的を置くというのは当然だと思う。 技術やつくり方がわかってなければ、簡単にものづくりのマネジメントを学ぶことはできない。デザイン教育における体験は技術教育だけでなく、考え、手を動かし、相手と向き合い、解決策を出していくこと、そうした経験がものづくりデザイン創造教育の価値である。 イノベーションデザインを学びに旭川に来たいという学びの場をつくり、日本や世界で活躍する人材を育てていく場にしてもらいたい。旭川で学んだ者が必ずしも旭川に残らなくても良いと思う。 ものづくりデザイン分野で空白なのが農業、農業デザインを教育研究テーマに掲げると日本初となる。 「デザイン」、「ものづくり」と「経済」、「保健福祉」とどう絡んでいくかについて、大きな改革、再編の中で、旭川大学も一緒に考えていく必要がある、小手先ではなく、長期的な視点で、文理融合やグローバル人材の育成などの考えを入れながら経済、社会福祉、ものづくりの分野を統合させた形でどのようにデザインしていくかが必要だと思う。
公立大学の全体像について		<ul style="list-style-type: none"> 旭川地域に公立大学をつくるという視点が大事で、北海道の木材をどう使うか、あるいは農産物をどう高度化するのかなど、地域が持っている自然環境を強く意識して考えないといけないと思う。 市民の会案にある建学の精神はまさに、文科省が言うところの知識基盤社会に必要とされる人材を育成する内容となっており、これが基本となると思う。 建学の理念やミッションなど、どんな人材を育成するのかがとても重要で、そこをまず固める必要があり、長期的ビジョンをもってミッションを考えるべきである。 国立大学においても改革が迫られている時代で、旭川大学もどう改革していくかという課題がある。 どのような社会を我々が構想するのか、どのような社会が望ましいものとして創るのかという意味で社会科学系や経済学系が大学にないと社会全体としてどちらの方向に向かうのかわからない。旭川にも社会科学系や経済学系の高等教育は必要である。 社会科学系についても、学生がまちに出て行ったり、地域の課題を考えたり、アクティブラーニングに力を入れるように、教育・研究も大きく変わりつつある。旭川大学も危機意識のもとで随分変わり得ると思う。 保健福祉学部の2学科が現在のままなのか、内容を変えるのか、また短大をどうするのかはものづくりデザイン学科のカリキュラムをより良い形に活かす意味でも検討する必要がある。